
私と彼。

タリカ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私と彼。

【Nコード】

N2219Z

【作者名】

タリカ

【あらすじ】

現代人の私は気づくと神様になっていた。そして私には生贄が差し出された。あれ？生贄なんてもらわれても……。

放置していた「私と生贄」をお話をちょっと変えてまた連載しようかと……。更新は不定期です。

一話

ふと目が覚めたらどこかの世界の神様でした。
なんてこった。

私よりもものすごく背の高い木々が、太陽の光を遮って森を薄暗くしていた。

人の通れるような、綺麗な道なんてなくて、あっても獣道。

でこぼこした道に、森を歩きなれない私、そしてどうみてもアウトドアに不向きな見知らぬ白いくつ。

スニーカーならまだマシだったけれど、ストラップ（革ひも）が足首にまかれているアングルストラップ・パンプっていうのかな・・・。

2

私が履くのは大体スニーカーだったので、こういった可愛らしい靴を履いたことなかった。

このでこぼこの地面を歩くにはつらい。

あと、私がいるのは飾り気のない真っ白なワンピース。

これも見覚えのないものだった。

見覚えのない場所、見覚えのない服。

そして、森の奥に寂れたしろい建物があった。

「だれか、いるかな」

ちよつとの希望をもって私はその建物を目指した。

その建物は、どこか神聖な雰囲気をもった、白く寂れた縦に長い建物だった。

所々外から見た建物にはヒビが入っていた。

作られてからずいぶん立つようだが、人の手が入っていない様子だった。

中に入れば、外から見た通り、縦に、天に螺旋階段が建物の壁に沿って続いていた。

建物の床と内壁は白と黒の市松模様。

現台風アート、というのか否か、それすらわからないけれど。

不思議と知らない場所なのに、ここは誰もいないと私はわかった。

螺旋階段が導く場所は、天井に空いた穴だった。

天井からのぞくのは、森では背の高い木々に遮られて見えなかった青い空。

上になにがあるわけでもなく、天井はないし、螺旋階段を登った先には屋外。

天井がないなんて・・・雨がしのげない。

しかも外から見た分ではこの建物の上にはなにもなかった。

でも気になるので登ってみると、

部屋があつた。

冷蔵庫にお風呂にキッチンに・・・2LDKであつた。

しかも私の家の部屋・・・ではなく先ほどの建物の床のように壁が白と黒の市松模様である。

市松模様って言い方古いの？チェックつていったほうがいい？

冷蔵庫なんかの機械なんかは全部白色であつた、しかしPCもあつた。

さつそくPCの電源を入れてみれば、どういふわけかインターネットにつなぐことはできたが

見知らぬ単語が並ぶばかりである。

検索をかけてみると、ブログなど全くない代わりに関連ある言葉はヒットする。

見知らぬ人物の写真や情報がたくさん載っていた。

やれどこどこの帝国の王子が結婚するだのどここの屋敷の使用人が屋敷主人の不倫を目撃したのなんなの。

よくわからないが、わかつたよ、ここは異世界かそれか私の夢なのだろう。

あまりの情報の多さ。なぜこのような不思議なPCが部屋にあるのか、この部屋はなんなのか。

私はなぜここにいるのか。

いろんな疑問に答えてくれる人はいない。

頭を抱えていたところで気づいた。

このPCで調べれば何かわかるかもしれない。

私は早速いろいろと調べ上げることにした。

一話

よくある、異世界からきました！っていうのを検索にかけてみたらPCにお前神様だよって言われました。

よくわからない言葉が多かったのですが

異世界から来た人間はこの世界では神族という”種族”なのだとかめったに生まれない種族というか、もう世界にいるかないかすらわからない種族だそうで。

伝説と化した種族。

ああ、いろいろとすっ飛ばしましたがここは異世界なようで、大分ファンタジー要素がたっぷりはいっているようだった。

魔族、獣人族、エルフ、ドワーフ、人間。

剣、魔法、魔法陣。皇帝、姫、冒険者、契約、精霊。

そして魔獣。

この世界にはびこる、悪、みたいなものらしい。

私の頭ではよく理解できなかったが、なんかこう・・・生きている

生物に害を与える瘴気なるものが固まってできたものらしい。魔獣は瘴気をまとっていて、瘴気をまとった生き物は基本的に魔獣で理性の欠片もない。魔獣は人々の住む村や町を襲い人を食うので、人々は魔獣を倒すために、冒険者となり”契約”を結び魔獣を倒す。

そんな世界。みたいだ。

契約っていうのは、異種族でも同族でも二人一組になって、魂の契約、というのを交わすようだ。

契約によるメリットは今まで露見しなかった潜在能力を契約によって引き出すことができるらしい。

いままで剣や魔法がからつきしにダメだった人が契約することによって魔力が使えるようになったり、姿が変わったりするらしい。

姿が変わるっていうのは、あれかなあ。

アニメとかでよくある、これが俺の真の姿！みたいな。

でも契約は契約でデメリットもあるわけで。

”魂の契約”は簡単にはできない。相性がよくなってはできないし、なにより強く相手を思う気持ちが必要なのだとか。

もし思いが契約中に悪意に変わったりなんかすれば、契約は切れてしまい、双方にダメージが出る、とか。

契約っていうのが、この世界では大変大事なようだった。

契約者の相手と相性が良ければ良いほど、力の発現がよい。

そうだったことが世界の根幹をなしているから、同性同士より異性同士のほうがメジャーなようだ。

まあ、すべての人が契約を交わすわけではないから契約がすべて！というわけではないだろうけれど、

契約は一種の結婚みたいなものである。

ちよつとだけ契約・・・なんて軽々しくはできないし、何より相手を想っていないければならない。

なんて・・・なんてファンタジーなんだろう。

私はなんだかついていけない。

神族で異世界で。契約で。ファンタジー。

ちよつと目が遠くを見つめてしまった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2219z/>

私と彼。

2011年12月8日02時00分発行